

千光寺山ロープウェイ山頂

駅長は彫刻猫「恋会門」

尾道市は、市営千光寺山ロープウェイの「駅長」に彫刻の猫「恋会門」(高さ40センチ)を任命し、山頂駅の乗降口付近に置いた。△猫のまち▽の新たなマスコットとして、観光客らの人気を集めそうだ。

恋人の聖地に新マスコット



「駅長」に任命された「恋会門」(尾道市の千光寺山頂で)

彫刻は、岡山市東区の彫刻家西岡良和さん(55)が尾道で暮らしていた2008年までの一時期に粘土で制作。昨年末、尾道市に寄贈した。市内の路地や斜面では、猫がうたた寝をしたり、のんびり歩いたりする姿が見られ、そんな様子をイメージしたという。

市は1月、千光寺山斜面にある志賀直哉旧居に展示したが、もっと多くの人に見てもらおうと、昨年約38万4000人が利用したロープウェイの駅に移した。

山頂一帯の千光寺公園は「恋人の聖地」に選定されており、彫刻は「恋に会う入り口」との意味を込めて市が命名。西岡さんは「お年寄りから子どもまで、頭をなでて親しみを持ってもらえたら」と話す。

今月中旬には、山頂駅でセレモニーがあり、岡田豊明・市産業部長が平谷祐宏市長名の辞令を読み上げた後、特注の帽子を恋会門にかぶらせた。